

三島地域委員会：「三島地域の活性化に向けた提案」について（第3期～第5期）

資料2

	第3期(H21～H22年度)	メモ欄	第4期(H23～H24年度)	メモ欄	第5期(H25～H26年度)	メモ欄
テーマ	住民主体のコミュニティ活動を推進し、安全・安心なまちづくりを進める。		コミュニティセンターを中心とした、住民主体のコミュニティ活動の定着と三島らしいまちづくりの推進を提案する。		三島地域の「地域の宝」を次世代を担う「子ども」たちと「里山資源」と位置付け、交通安全や防犯、防災への意識の高まり、地域経済や産業の新たな展開、安全で安心な地域づくりを進める。	
コミュニティ関係	1 コミュニティ活動を活かしたまちづくり。（地域の知恵と力を結集した市民力が発揮される住民主体のまちづくり、地域間の交流の促進）		1 コミュニティ活動を活かしたまちづくり。（地域の知恵と力を結集した市民力が発揮される住民主体のまちづくり、地域間の交流の促進）			
	①	地域の事業やイベントの実施方法の見直し及びコミュニティ事業への移行。	①	歩行者の安全確保について、地域住民と交通安全協会や町内会活動が連携し検討。		
	②	簡素で効率的な仕組みとネットワークづくりを強化、「コミュニティ推進委員」（仮称）等の組織化。	②	将来の公共交通のあり方について、生活交通ニーズの変化に対応した検討。		
	③	「コミセン新聞」や「コミセンだより」などの充実。	4 「住みよい三島地域」にするための取り組み			
	④	きめ細やかなコミュニティ活動の実施。住民の理解と協力による自主財源の確保。	①	みしまコミュニティセンターを中心に、それぞれの自主性を尊重したみしまコミュニティの推進		
	⑤	各種補助金や基金事業等を活用し、地域に根ざしたコミュニティ活動の実践。	②	安心・安全・快適に暮らせるための防災対策や環境整備への取り組み		
子育て・見守り関係	2 子育てと福祉を大切にしたまちづくり		3 子育てを応援し、住民が相互交流をできるように、考え、支え合うまちづくり。		1 子供たちの登下校の安全を考える	
	①	放課後児童健全育成事業(児童クラブ)のH23からみしま交流センターへ移設、「日吉児童クラブ」の専用スペースの確保と児童館的な機能を持った「居場所づくり」の環境整備。	①	日吉小学校区の放課後児童クラブ・子ども広場の活動場所について、日吉小学校内の空きスペースを活用できるよう改善。	①	小学校における取り組みと今後の課題 ・日吉小学校や瓜生地区の活動が、地域全体に広がるための取り組み。各地区で抱えている問題の把握。
	②	利用者ニーズを捉え見守り体制の強化とサービスの充実した配食サービス事業。	②	子育て談話室について、保護者の関心事や子育て等の身近なテーマを考慮し、充実した談話室及び健全育成事業の取り組みが必要。	②	中学生へのアンケート、交通弱者の意見等による、道路の凹凸や歩道の不備など、様々な環境整備が必要。
			③	三島地域のボランティア活動について、目的や役割を見直し、社会福祉協議会と連携しボランティアが参加しやすい環境の整備や登録制度の改善。	③	地域全体としての課題として、各学区で見守りが継続するため「点から始まり線となる活動」への取り組み。保護者や学校、地域住民、行政、コミセン、交通安全協会、民生児童委員等の情報の共有と連携への体制整備。
里山・地域資源・地域の宝	3 里山の保全と資源の利活用によるまちづくり		2 子どもたちが「みしま」を誇れるように、個性あふれるイベントや地域資源の発展、地域内外とも交流し郷土愛を育む。		里山資源を地域の宝とするために。「里山にはお金で買えない豊かさがある」が、近年は里山の荒廃が進んでいる。里山を整備し、保全して『資源』として活用することにより、里山の防災・減災機能の回復、交流の場に繋がる。	
	①	間伐採や伐採林、河川の障害樹木等を再利用、再活用する持続可能な自然循環サイクル事業の推進。地域の活性化と資源保全の両立を図る。	①	地域資源の発信について、歴史や文化の他、里山など自然資源も含めた魅力ある宝と三島独自のイベントを活かした地域全体の発信力を高める必要がある。	①	里山資源の整備・保全と教育 ・里山資源の整備活動において、人と人との繋がりを深め、地域の防災力向上に繋げる。
	②	里山を環境教育や自然体験の場、レクリエーションの場としての活用。住民参加型の里山整備と身近な自然に気軽に親しめる機会を増やす。	②	里山再生エネルギー資源について、地域の豊富な山林資源を新たなエネルギー源としての有効利活用を検討。	②	里山資源のエネルギーとしての活用 ・間伐採等を利用した、里山再生エネルギーによる循環型社会の構築への研究が課題。そのため、里山の維持管理費用の捻出ため、新たな産業や取り組みが必要。 ・里山整備のための「受け皿組織(NPO等)」の育成が必要。
	4 地産地消、安全・安心なまちづくり					
	①	買い物弱者支援のため、農産物直売所の充実や設置支援、農家と消費者、農協、商工会等と連携できる体制づくり。				
	②	地域ぐるみで環境保全の共同活動を実施、安全・安心な地場産農産物の生産と地産地消を推進。				
		③ 里山資源を活かした循環型地域コミュニティ ・里山資源を活用した「コミュニティの場」を創出し、循環型地域コミュニティを促進。 ・付加価値のある農林産物や加工品の製造・販売により多様な農作物の生産や直売所開設、特産品等の開発。				